



最高の商学を学びたい皆さんへ

私たちの想い。それは、商学部を目指す高校生の皆さんに『明治大学商学部のよりリアルな姿』を知ってもらうことです。

私たちはこの冊子を作るにあたり、「明治大学商学部には、どういった特徴があるのか」「その特徴をどう伝えるか」を導き出すため、既存の広報誌を徹底的に研究しました。その結果、大学側が高校生に対して発信している情報だけでは、真の商学部の姿が伝え切れていないと感じ、私たちは全てをゼロから始めることにしました。

制作に参加したのは、特別テーマ実践科目「明治大学商学部の広報戦略―企画・実践―」を受講している学生16名。学生自らが見て体験して感じた本当の明治大学商学部の姿を、学生自らが発信する誌面からぜひ体感してほしいと思います。

この冊子を制作するにあたっては、多くの方のご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。最後に、この冊子を手に取って読んでくださった皆さん、どうもありがとうございました。

「商学部の現場」制作メンバー一同

向井裕也	山本悠貴	趙 恩周	森下加奈代	甲斐拓人	仲田真奈江	柴山由佳
清水里紗	蓼輪由貴	木村隆幸	山田貴大	小田 景	江部奈々美	原 伸天
嶋田陽介	落合 徹					



山崎織江
2008年 商学部卒業
日本貿易振興機構 (JETRO) 勤務



「大学」と「現場」の 良きバランスを

OG MESSAGE

ブレーメンのBLG Logisticsという現地の物流企業で2ヵ月半のジョブインターンシップを体験し、EUの物流の現場を見ました。こうした経験から、島国の日本と大陸の欧州では、モノの流れ方が違うことを実感することができました。

1年間の留学を終えて帰国すると、すぐに就職活動が待っていました。商学部と留学先で学んだ貿易の理論的な知識と、通関士の勉強やジョブインターンシップで得た貿易の実務的な部分の両方に惹かれていたので、どういった進路を選んだら良いか非常に悩み苦しんだ就職活動になりました。最終的には、貿易を軸としてさまざまな事業・調査ができる今の職場を選びました。将来、貿易のスペシャリストになれるよう、ただ今修行中です。

最後に余談ですが、入社から約4ヵ月経ちましたが、未だに御茶ノ水・神保町をよく訪れます。自分を育ててくれた大学を見ることで、仕事へのモチベーションを上げています。今はまだ高校生の皆さんも将来、明治大学商学部で精一杯に学んで、キャンパスが恋しくなってしまうくらい素敵な学生生活を送ってください！

皆さんは、大学の授業だけを大切にしたいですか。それとも、大学外にも広く目を向けたいと思っていますか。大学に入って学んだら、その知識を活かして、ぜひとも大学外の世界も見てみましょう！学外でさまざまなことを学んだら、再び大学に戻ってさらなる飛躍を目指しましょう。

私は欧州・日本間の貿易に興味があり、明治大学商学部に入學しました。1・2年次必修の教養科目を楽しみながらも、貿易への興味が抑えきれず、2年次に通関士の資格を取得しました。資格の勉強は骨が折れるもので、気分転換に横浜へ行ってはコンテナ船を眺めたり、船に乗ってガントリークレーン（港に設置されている貨物を積み降ろすクレーン）を観察したり、税関へ行って通関士受験の勉強を励ましてもらったりしました。

無事に通関士資格を取得し、3年次になると、駿河台での専門講義が待っていました。その当時私は、商学部の協定校であるブレーメン経済工科大学への留学を希望していたため、出発までの間は商学部での専門講義とドイツ語の勉強を大切にしました。念願のブレーメン留学では、大学での講義、通関士の知識がすぐく活かしました。留学中の夏休みには、